

オレンジカフェ通信

6月・7月号



5月には30度を超える記録的な暑さが続きましたが、みなさんいかがお過ごしですか。
最近自宅の軒下でツバメが巣作りを始めました。ツバメは昔から害虫を食べて農作物を守ってくれる益鳥。人通りの多い家の軒先に巣を作るので、客の出入りが多い家＝繁栄している家＝「商売繁盛」の象徴とされています。いまからヒナが無事巣立つことを楽しみにしています。

さて、オレンジカフェ通信ではたくさんの人に認知症やその活動を知っていただけるよう紹介します。

オレンジカフェ



「オレンジカフェ」は、認知症や介護について学び、相談できる通いの場です。
興味のある人、介護者、当事者、リフレッシュしたい人、ぜひお出掛けください。

毎月第3火曜日 13:30～16:00

にこにこ甘楽 地域包括支援センター 出入り自由で、予約は必要ありません。

6月20日（火）

「知っているようで知らない

介護保険について学ぼう！」

福祉課介護保険係 大河原 爽 さん

7月18日（火）

「若年性認知症について知ろう」

西毛病院 若年性認知症支援コーディネーター

高麗 光 さん

若年性認知症

65歳未満で発症した場合、「若年性認知症」といいます。

若年性認知症は働き盛りの世代で発症するため、本人だけでなく、家族の生活への影響も大きくなります。

病気のために仕事をやめ、経済的に困難な状況になるかもしれません。子どもの教育、就職、結婚などの人生設計が変わるかもしれません。また本人や配偶者の親の介護が重なることもあり、介護の負担が大きくなるかもしれません。

このように若年性認知症は社会的にも大きな問題ですが、企業や医療・介護の現場でもまだ認識が不足している現状です。町としては当事者の負担を少しでも軽減するように利用可能な社会的資源につなぎ、本人の意向に寄り添いながら地域で支える活動に取り組んでいます。

オレンジ文庫 本の紹介



「丹野智文 笑顔で生きる
～認知症とともに～」

著者 丹野 智文 出版社 文藝春秋

丹野さんは39歳で若年性アルツハイマー病と宣告されます。「認知症＝終わり」というイメージがありましたが、家族や友人、職場や地元の人が支えてくれ、前向きに考えられるようになりました。また全国の当事者と出会い「笑顔で楽しく過ごす」ことの大切さを知ります。

宣告から10年経過しますが、仕事を続けながら「認知症の人にやさしい社会は、全ての人にやさしい社会である」と認知症への社会的理解を広める活動をしています。

～5月のオレンジカフェ～

5月17日（火）図書館ら・ら・かんら 司書 三木 さやかさんが「ブックトーク」を行いました。「笑う門には福来る」というテーマで「ボケないための笑いヨガ」や笑点でおなじみ春風亭一之輔の「春風亭一之輔のおもしろ落語入門」、「本所おけら長屋シリーズ」など紹介。また大人でも楽しめる絵本「おふとんかけたら」や「おれはねこだぜ」、「おじいちゃんの手帳」の読み聞かせをしました。



高齢者のよろず相談

甘楽町地域包括支援センター

67-5182（直通）

〒370-2213

甘楽町大字白倉 1395 番地 1 にこにこ甘楽内
月～金（祝日・年末年始を除く）8:30～17:15



前号は、甘楽町ホームページまたは QR コードからご確認ください♪

